



もらったクレヨンで絵を描いた児童たちと中嶋康博
理事長（右）
山形市・山寺小

山寺小児童が制作、岡山・倉敷へ

絵画で伝える

山形の魅力

山形市の山寺小（武田裕子校長）3、4年生10人が、本県の魅力を岡山県倉敷市の人たちに伝えようと絵画制作に取り組んだ。山寺や芋煮、果物などを題材に色彩豊かに表現し、出来上がった作品は山形、倉敷の両青年会議所（JC）が橋渡しして同市の大原美術館に届ける。

JC橋渡しし 山寺や芋煮、色彩豊かに

児童たちは学習の中で感じた山寺の魅力を観光客に伝えたいという思いから、山寺観光ガイドきざし会の協力を得て案内のポイントを学んだ。その成果を披露しようとして、倉敷JCが今年1月、JCはお礼の気持ちとして山形JCとの交流事業で、児童たちに同美術館

で来県した際、ガイド役を担った。当日は山寺の門前町から奥の院まで約2時間をかけて案内。石段を上りながら見どころを紹介し、俳句も詠んだ。倉敷交流が深まり、最終的に人の交流が生まれるといいと話した。（柴崎愛）

のオリジナルクレヨンを1箱ずつ贈り、「山形の魅力を描いて送ってね」と呼びかけたという。

児童たちはもらったクレヨンで山寺のほか、文翔館や山形名物などを画用紙いっぱい描いた。完成した絵は、山形JCの中嶋康博理事長（39）らが12日、同校を訪れて受け取り、倉敷JCを経て同美術館に届けられる。4年小野凜空さん（10）は「山寺をガイドしたか